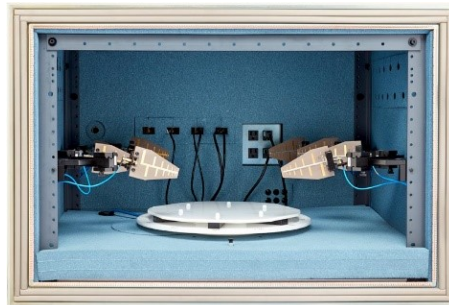


2024年1月10日
株式会社東陽テクニカ

自動化ワイヤレステストベッド「OCTOBOX」 Wi-Fi 7 対応モデルを国内販売開始 最新無線 LAN 規格に対応した無線デバイス開発の迅速化を支援

株式会社東陽テクニカ(本社：東京都中央区、代表取締役社長：高野 俊也^{こうの としや}、以下 東陽テクニカ)は、無線デバイスの統合評価環境である米国・Spirent Communications 社製「OCTOBOX」の Wi-Fi 7 対応モデルの日本国内での販売を、2024年1月10日より開始いたします。



「OCTOBOX」に組み込まれる Wi-Fi 7 対応テストベッド

【概要／背景】

Wi-Fi 7 は IEEE 802.11be(EHT, Extreme High Throughput)として標準化が進められている無線 LAN の次世代規格です。無線 LAN 規格の現在の主流である Wi-Fi 6/6E よりさらに高速に、低遅延で利用できるようさまざまな新機能が追加されます。また Wi-Fi 7 では、無線 LAN で長く利用されてきた 2.4 GHz 帯と 5 GHz 帯に加えて、Wi-Fi 6E で使用可能になった 6 GHz 帯を引き続き使用できます。

国内では、総務省が 2023 年 12 月 22 日に電波法を改正し、Wi-Fi 7 が正式に利用可能になりました^{※1}。また、Wi-Fi 普及を推進する世界的な業界団体 Wi-Fi Alliance は、Wi-Fi 7 認証プログラムを 2024 年 3 月末から開始することを発表しています^{※2}。これらにより、Wi-Fi 7 対応製品の開発が一層加速すると予測されています。

Wi-Fi 7 で新たに追加される主な機能	
320 MHz チャンネル幅	6 GHz 帯で 320 MHz チャンネル幅が規定され、従来から 2 倍の高速化が可能
4096 QAM (Quadrature Amplitude Modulation)	新たな変調方式により 20%程度のパフォーマンス向上
MLO (Multi-Link Operation)	MLO に対応したデバイスは複数の周波数を同時に使用可能 (従来の無線 LAN: デバイスは一つの周波数のみで通信)

その他にも MRU(Multiple Resource Unit)や Preamble Puncturing などの新機能により、ユーザーは無線 LAN をさらに便利に、安定して利用できるようになると期待されています。

Wi-Fi 7 に対応したデバイスやサービスの開発においては、新機能を厳しくテストし、動作要件や性能要件を満たしているかを十分に確認した上で、いかに迅速に市場投入できるかが重要となります。

東陽テクニカが取り扱う「OCTOBOX」は、世界初の Wi-Fi 性能テスト標準である TR-398 のテストベッドにも採用された自動化ワイヤレステストベッドとして、世界中のサービスプロバイダーや認証ラボ、チップセットベンダーや機器ベンダーなどにも利用されています。このたび、Wi-Fi 7 対応製品の開発が加速することを見込み、従来の Wi-Fi 6E 対応「Pal-6E」、「STApal-6E」に加えて、Wi-Fi 7 に対応した「Pal-7」および高いスループットに対応するための高トラフィック用追加サーバー「OCTOBOX Mini Server」を組み込んだ Wi-Fi 7 対応モデルのテストベッドを国内で販売開始いたします。

最新の無線 LAN 規格に対応したモデルにより、日本国内における Wi-Fi 7 対応のデバイスやサービスの開発に貢献してまいります。

※1 電波法施行規則等の一部を改正する省令（令和 5 年総務省令第 95 号）概要：

https://www.soumu.go.jp/main_content/000918948.pdf（総務省ホームページより）

※2 Wi-Fi Alliance® 「Wi-Fi CERTIFIED 7」(英文)： <https://www.wi-fi.org/discover-wi-fi/wi-fi-certified-7>

【「OCTOBOX」テストベッドの特長】

「OCTOBOX」は、Wi-Fi などの無線デバイスのパフォーマンスを評価するための、小型でスタック可能なテストベッドです。電波暗箱、シールドボックス、減衰器やアッテネータなどの検証に必要な機器を搭載し、自動化に対応した統合環境により、高い再現性を持つテスト環境の構築を実現でき、試験時間の削減および製品品質の向上に大きく寄与します。



「OCTOBOX」イメージ

< Wi-Fi 7 対応モデル >

- ・Wi-Fi 7 対応テストベッド：STACK-AP-7-MIN / STACK-AP-7-MID
- ・Wi-Fi 7 対応追加モジュール：Pal-7 OPEN
- ・高トラフィック用追加サーバー：OCTOBOX Mini Server



Wi-Fi 7 対応追加モジュール

< 「Pal-7」主な機能 >

- ・320 MHz チャンネル幅、4096 QAM、MLO に対応
- ・2.4/5/6 GHz クアッド Radio を搭載
- ・vSTA に対応
- ・synchroSniffer によるトラブルシュートが可能



高トラフィック用追加サーバー

< Spirent Communications 社よりコメント >

・Lifecycle Service Assurance 事業部バイス・プレジデント James Kimery 氏

「Wi-Fi 7 は多くの複雑な新技術が組み込まれているため、テストが非常に難しい技術です。Spirent OCTOBOX は市場をリードする高品質で完全自動化されたテストプラットフォームであり、Wi-Fi 7 の新しい要件を厳しくテストできます。」

<株式会社東陽テクニカについて>

東陽テクニカは、1953年の設立以来、最先端の“はかる”技術のリーディングカンパニーとして、技術革新に貢献してまいりました。その事業分野は、情報通信、自動車、エネルギー、EMC(電磁環境両立性)、海洋、ソフトウェア開発、ライフサイエンス、セキュリティなど多岐にわたります。5G 通信の普及、クリーンエネルギーや自動運転車の開発などトレンド分野への最新の技術提供に加え、独自の計測技術を生かした自社製品開発にも注力し、国内外で事業を拡大しています。最新ソリューションの提供を通して、安全で環境にやさしい社会づくりと産業界の発展に貢献してまいります。

株式会社東陽テクニカ Web サイト : <https://www.toyo.co.jp/>

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ 経営企画部マーケティンググループ

TEL : 03-3279-0771(代表)

E-mail : marketing_pr@toyo.co.jp

「OCTOBOX」製品サイト : <https://www.toyo.co.jp/ict/products/detail/octobox.html>

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。